

谷川道雄先生著作目録

〔単行本〕

書名	出版社	発行年	注記
唐の太宗（中国人物叢書第二期二巻）	人物往来社	一九六七年 四月	
隋唐帝国形成史論	筑摩書房	一九七一年一〇月	
中国中世社会と共同体	国書刊行会	一九七六年 九月	
世界帝国の形成 後漢～隋・唐（現代新書）	講談社	一九七七年 二月	
Medieval Chinese Society and the Local "Community." (Joshua A. Fogel 訳)	University of California Press	一九八五年一〇月	英文
中国中世の探求 歴史と人間	日本エディタースクール出版部	一九八七年 九月	
交感する中世 日本と中国（網野善彦との対談、共著）	ユニテ	一九八八年 七月	
隋唐帝国形成史論 増補版	筑摩書房	一九八八年 一月	
世界帝国的形成 後漢・隋・唐（史学叢書系列）（耿立群訳）	稲郷出版社	一九九八年 九月	中文
中国中世社会与共同体 世界漢学論著（馬彪訳）	中華書局	二〇〇二年 二月	中文
中国史とは私たちにとって何か 歴史との対話の記録	河合文化教育研究所	二〇〇三年 九月	
戦後日本から現代中国へ 中国史研究は世界の未来を語り得るか（河合ブックレット）	同	二〇〇六年 一月	

歴史の中を人間はどう生きてきたか 私たちの場所から中国
中世を見る(シリーズ《鶴見俊輔と考える》四 鶴見
俊輔他との対談)

編集グループ(SURE)

二〇〇八年 九月

隋唐世界帝国の形成 学術文庫版(原題 世界帝国の形成)

講談社

二〇〇八年 九月

交感する中世 日本史と中国史の対話 MC新書版再刊

洋泉社

二〇一〇年 三月

(原副題 歴史と人間)

隋唐帝国形成史論 日本中国史研究叢書(李濟滄訳)

上海古籍出版社

二〇一一年 六月 中文

中国中世社会与共同体 増訂本(馬彪訳)

同

二〇一三年 二月 中文

「共訳・共編」

書名

出版社

発行年

中国歴史概説 上巻

大月書店

一九五六年一〇月

(尚鉞主編 安部健夫校閲 池田誠他訳)

中国民衆叛乱史 (一) 秦〜唐(東洋文庫)(森正夫との共編)

平凡社

一九七八年 八月

中国民衆叛乱史 (二) 宋〜明中期(東洋文庫)

同

一九七九年 三月

中国民衆叛乱史 (三) 明末〜清I(東洋文庫)

同

一九八二年 四月

中国民衆叛乱史 (四) 明末〜清II(東洋文庫)

同

一九八三年 三月

中国士大夫階級と地域社会

昭和五七年度文部省科学研究費補助金
総合研究(A) 成果報告書

一九八三年 三月

高等学校世界史(共著)

第一学習社

一九八三年 三月

アジア歴史研究入門 第一巻 中国一

同朋舎

一九八三年 一月

アジア歴史研究入門 第二巻 中国二・朝鮮

同

一九八三年 一月

アジア歴史研究入門 第三巻 中国三

同

一九八三年 一月

アジア歴史研究入門 第四巻 内陸アジア・西アジア

同

一九八四年 九月

アジア歴史研究入門 第五巻 南アジア・東南アジア・世界
史とアジア

同

一九八四年 二月

改訂版高等学校世界史

第一学習社

一九八六年 三月

アジア歴史研究入門 別巻 総目次・総索引

同朋舎

一九八七年 六月

地域社会在六朝政治文化上所起的作用

玄文社

一九八九年 三月

(日中国際共同研究報告書)

中国辺境社会の歴史的研究

昭和六三年度文部省科学研究費補助金
総合研究(A) 成果報告書

一九八九年 三月

戦後日本の中国史論争

河合文化教育研究所

一九九三年 一月

魏晋南北朝隋唐時代史の基本問題

汲古書院

一九九七年 六月

内藤湖南の世界 アジア再生の思想

河合文化教育研究所

二〇〇一年 三月

土地を奪われゆく農民たち 中国農村における官民の闘い

同

二〇一〇年 二月

(王国林著 中田和弘・田村俊郎との共訳)

「論考」

論文名

所載

発行年

注記

唐代の藩鎮について 浙西の場合

史林 三五―三

一九五二年一〇月 論集下

隋唐帝国をどう考えるか

東洋史研究 一二―二

一九五二年二月 論集下

唐代の職田制とその克服
「安史の乱」の性格について

古代東洋

龐助の乱について

隋唐の世界帝国（横田滋と共著）

武后朝末年より玄宗朝初年にいたる政争について

唐代貴族制研究への一視角

北魏末の内乱と城民（上）

北魏末の内乱と城民（下）

北魏官界における門閥主義と賢才主義

一東洋史研究者における現実と学問

北朝末期の郷兵について

北齊政治史と漢人貴族

慕容燕の権力構造 とくに前燕を中心として

唐末の諸叛乱の性格

初期拓跋国家における王権

東洋史研究 一二一五

名古屋大学文学部研究論集

VIII〈史学三〉

歴史学の成果と課題（岩波書店）

名古屋大学文学部研究論集

IX〈史学四〉

アジア史講座 一（岩崎書店）

東洋史研究 一四一四

史林 四一一三

史林 四一一五

名古屋大学文学部十周年記念論集

新しい歴史学のために 六八

東洋史研究 二〇一四

名古屋大学文学部研究論集

XXVI〈史学九〉

名古屋大学文学部研究論集

XXXIX〈史学一〇〉

歴史教育 一一一四

史林 四六一六

一九五三年 九月 論集下

一九五四年 三月 論集下

一九五四年一月

一九五五年 一月 論集下

一九五五年 六月

一九五六年 三月 論集下

一九五八年 四月

一九五八年 九月 形成史論

一九五九年 三月 形成史論

一九六一年 四月 共同体

一九六二年 三月 形成史論

一九六二年 三月 形成史論

一九六三年 三月 形成史論

一九六三年 四月 論集下

一九六三年一月 形成史論

北魏研究の方法と課題

南匈奴の国家前後兩趙政権の性格について

中国史の世界史的把握はどう進んだか（一）

古代社会の性格論争をめぐって

六朝貴族制社会の史的性格と律令体制への展開

五胡十六国および北周の諸君主における天王の称号について

北朝の貴族制

均田制の理念と大土地所有

蘇綽の六条詔書について

周隋革命の経緯について 周礼国家の悲劇

中国史研究の新しい課題

封建制の再評価問題にふれて

高麗と隋の政界

五胡十六国史上における苻堅の位置

五胡十六国 異民族王朝の乱立興亡

中国史研究の新しい課題再論

重田徳氏「封建制の視点と明清社会」を読んで

名古屋大学文学部研究論集

XXXXII〈史学一一〉

名古屋大学文学部研究論集

XXXXV〈史学一二〉

歴史評論 一八四

社会経済史学 三一―一五

名古屋大学文学部研究論集

XXI〈史学一四〉

歴史教育 一四一五

東洋史研究 二五―四

名古屋大学文学部研究論集

XXIV〈史学一五〉

古代文化 一八一五

日本史研究 九四

田村博士頌寿東洋史論叢

名古屋大学文学部二十周年記念論集

日本と世界の歴史 三 古代・東洋（学習研究社）

東洋史研究 二八一・二三

一九六四年 三月 論集上

一九六五年 三月 形成史論

一九六五年二月 共同体

一九六六年 二月 共同体

一九六六年 三月 形成史論

一九六六年 五月 形成史論

一九六七年 三月 共同体

一九六七年 三月 共同体

一九六七年 五月 形成史論

一九六七年一月 共同体

一九六八年 三月

一九六八年二月

一九六九年二月

一九六九年二月

中世史研究における立場と方法

(川勝義雄との共著、川勝義雄の著作として『中国の歴史意識』・平凡社に所収)

北朝貴族の生活倫理

拓跋国家の展開と貴族制の再編

北朝郷兵再論 波多野教授の軍閥研究に寄せて

六朝貴族における学問の意味

中国社会の構造的特質と知識人の問題

「共同体」論争について

中国史研究における思想状況

中国官僚制社会のひとつの見方

鄭道昭とその一族

隋唐政治史に関する二三の問題

とくに古代末期説をめぐって

隋唐帝国への道

中国古代中世史と人間 宇都宮学の世界

「著作史」の一視点 著述と纂輯

河朔三鎮における節度使権力の性格

中国中世史研究(東海大学出版会)

一九七〇年 三月

同

岩波講座世界歴史 五

一九七〇年 三月
一九七〇年 九月
一九七二年 三月

名古屋大学文学部研究論集

論集下

名古屋大学東洋史研究報告 一

一九七二年一月 論集上

思想 五八二

一九七二年二月 共同体

名古屋大学人文科学研究会 年報 一

一九七四年二月 探求

アジア・クォータリー 七―一

一九七五年 一月 共同体

書論 六

一九七五年 五月

東洋史研究 三四―三

一九七五年二月 論集下

教養講演集 四 人間と文化

一九七六年一〇月 探求

名古屋大学東洋史研究報告 四

一九七六年一月 探求

EDITOR 三四

一九七七年 六月 探求

名古屋大学文学部研究論集

一九七七年 三月 論集下

LXXIV(史学二五)

六朝・隋唐社会の史的性格より見た「東アジア世界」の問題

自由と連帯の視座 中国史の場合

東アジア世界形成期の史的構造

冊封体制を中心として

中国史研究における人間理解の問題

日本における歴史学の発達と現状 六朝・隋唐

六朝時代の都市と農村の分化に関する試論

自営農民と国家との共同体的関係

北魏の農業政策を素材として

北朝末く五代の義兄弟結合について

唐の太宗(部分再録)

六朝社会史をめぐる最近の研究動向

分期問題と共同体論

武川鎮軍閥の形成

関於北朝末期至五代的義兄弟結合(張鄰訳)

則天武后の明堂

中国士大夫階級と地域社会

東アジア文化圏の成立をめぐる

一九七八年 三月 論集上

年報中世史研究 四

一九七九年 五月 探求

隋唐帝国と東アジア世界

一九七九年 八月 論集上

史学雑誌 八八一―一二

一九七九年二月 探求

日本における歴史学の発達と現状 V

一九八〇年 二月 論集下

唐代史研究報告 III

一九八〇年 三月

中国聚落史の研究 周辺諸地域との比較を含めて(刀水書房)

名古屋大学東洋史研究報告 六

一九八〇年 八月 論集上

東洋史研究 三九―二

一九八〇年 九月 論集下

人物中国の歴史 六 長安の春秋

一九八一年 八月

(集英社)

中国歴史学界の新動向 新石器から現代まで

一九八二年 五月 論集上

名古屋大学東洋史研究報告 八

一九八二年二月 増補版

中国古代史論叢 二

一九八二年 中文

同朋 五五

一九八三年 一月 論集下

昭和五十七年度文部省科学研究費補助金総合研究(A) 成果報告書

一九八三年 三月 論集上

試論・隋唐国家の歴史的構造

魏晉南北朝

西魏・北周・隋・唐政権と府兵制

七―一三世紀内陸アジア君主権の研究

中国史の時代区分問題をめぐって 現時点からの省察

府兵制と府兵制国家

魏晉南北朝及隋唐的社会和国家

(一九八四年六月、中国社会科学院歴史研究所に

おける学術報告、姜鎮慶訳)

中国史時代区分問題 由現在的情况来省察(高明士訳)
貴族制と封建制 川勝義雄氏の遺業に寄せて

中国史研究における人間理解

一九七九年史学大会から

《中国中世》の発見とその思想

六朝名望家社会の理念的構造

あとがき

貞観政風の一研究

新しい歴史学のために 一七一

アジア歴史研究入門 一(同朋舎)

唐代史研究会報告 V

中国律令制の展開とその国家・社会との

関係 周辺諸地域の場合を含めて

昭和五十八年度第二一回事業報告書

(財団法人三島海雲記念財団)

史林 六八―六

律令制 中国朝鮮の法と国家(汲古書院)

中国史研究 一九八六―三

大陸雜誌 七三―五

中国貴族制社会の研究

(京都大学人文科学研究所)

中国中世の探求 歴史と人間

(日本エディタースクール出版部)

同

同

同

中国社会・制度・文化史の諸問題

——日野開三郎博士頌寿記念

一九八三年 五月

一九八三年 一月

一九八四年 三月 論集下

一九八四年 九月 論集上

一九八五年 一月 探求

一九八六年 二月 増補版

一九八六年 八月 中文

一九八六年 一月 中文

一九八七年 三月 探求

一九八七年 九月 探求

一九八七年 九月 探求

一九八七年 九月 探求

一九八七年 一月 論集下

中国史時代区分問題(張鄰訳)

六朝時代の襄陽与江陵(王霜媚訳)

中国史上的中世(一九八七年一月、国立台湾師範大

学歴史学研究所において、邱添生訳)

六朝時代の襄陽与江陵(王霜媚訳)

關於河朔三鎮藩帥の継承(王霜媚訳)

而魏齊周時代の覇府と王都

河朔三鎮における藩帥の承継について

大唐世界帝國的統合之道(一九八七年一月、台湾国

立政治大学歴史学研究所における講演、高明士訳)

後漢末・魏晉時代の遼西と遼東

時代の転換と辺境社会

地域社会在六朝政治文化上所起的作用(王霜媚訳)

六朝時代の都市と農村の分化に関する試論

六朝時代の名望家支配について

六朝時代与地域社会(郭興亮・王志邦訳)

Prominent Family Control in the Six Dynasties.

史林 一九八七―二(上海社会科学院)

古代長江中游的經濟開發

思与言雜誌 二五―五

古代長江中游的經濟開發

第一屆國際唐代學術會議論文集

(中華民國唐代學者聯誼會)

唐代史研究報告 VI

中国都市の歴史的研究

中国古代の法と社会―栗原益男先生古稀

記念論集(汲古書院)

歴史月刊 一二

昭和六三年度文部省科学研究費補助金総
合研究(A) 成果報告書

(谷川道雄主編) 日中国際共同研究報告
書(玄文社)

唐代史研究報告 III

中国聚落史の研究(増補)(刀水書房)

龍谷大学論集 四六三

東南文化 五

ACTA ASIATICA 60

一九八七年 中文

一九八八年 一月 中文

一九八八年 一月 中文

一九八八年 一月 中文

一九八八年 二月 中文

一九八八年 三月 増補版

一九八八年 七月 論集下

一九八九年 一月 中文

一九八九年 三月 論集上

一九八九年 三月 中文

一九九〇年 一月

一九九〇年 七月

一九九一年 中文

一九九一年 英文

顔真卿とその時代

六朝時代における都市と農村の対立関係について
山東貴族の居住地問題からの接近
北魏末の内乱と城民（夏目新訳）

日本における魏晉南北朝研究の回顧

戦後日本の中国史論争 総論

隋代の通守について（關於隋代的通守）

西魏二十四軍の成立と豪族社会

内藤湖南の六朝論及其对日本学术界の影響（胡宝華訳）

日本魏晉南北朝史研究回顧（上）

日本魏晉南北朝史研究回顧（統）

關於所謂李林甫專政

中国史上の古代と中世 内藤湖南への回帰

中国の中世（邱添生訳）

六朝時代の名望家支配（邱添生訳）

中国社会構造的特質と士大夫問題（王霜媚訳）

府兵制国家論

書論 二七

中国の都市と農村（汲古書院）

日本学者研究中国史論著選訳 四

六朝隋唐

中国史学 二

戦後日本の中国史論争
（河合文化教育研究所）

周一良先生八十生日記念論文集
（中国社会科学出版社）

東洋史苑 四〇・四一合併

文史哲 一九九三—三

中国史研究動態 五

中国史研究動態 六

第二屆國際唐代學術會議論文集（上）
文学及敦煌学（天津出版社）

古代文化 四五—八

日本学者研究中国史論著選訳 二 專論

同

同

龍谷大学論集 四四—三

一九九一年二月

一九九二年 七月 論集上

一九九二年 七月 中文

一九九二年一〇月

一九九三年 一月

一九九三年 一月 論集下

一九九三年 三月 増補版

一九九三年 五月 中文

一九九三年 五月 中文

一九九三年 六月 中文

一九九三年 六月 中文

一九九三年 八月

一九九三年一〇月 中文

一九九三年一〇月 中文

一九九三年一〇月 中文

一九九三年二月 増補版

隋末唐初山東叛乱勢力之研究

研究生活四十余年

中国中世社会と「豪族共同体」（金民寿訳）

府兵制国家論（蔣非非訳）

隋末の内乱と民衆 剽掠と自衛

欲望・規範・秩序をめぐる研究史再考

「中国中世」再考

顔真卿と李嶠

魏晉南北朝隋唐時代史の基本問題 総説

六朝時代都市と農民の対立関係（牟発松訳）

隋唐帝国形成史論 増補版 あとがき

二つの豪族共同体論 堀敏一「魏晉南北朝時代の

〈村〉をめぐる」を読む

「共同体」論と六朝郷里社会

中村圭爾氏の疑念に答える

内藤湖南と中国基層社会

中国皇帝論の試み

内藤湖南の世界 序説

戦後の内藤湖南批判について 増淵龍夫の場合

隋唐史論集

東洋史苑 四二・四三合併

東方学志 八四

北大史学 二

東洋史研究 五三—四

中国 社会と文化 一〇

中国中世史研究 続編（京都大学出版会）

東方学会創立五十周年記念東方学論集

魏晉南北朝隋唐時代史の基本問題
（汲古書院）

（汲古書院）

魏晉南北朝隋唐史資料 一五

増補 隋唐帝国形成史論（筑摩書房）

名古屋大学東洋史研究報告 二二

東洋史苑 五四

史林 八三—二

古代文化 五二—八

内藤湖南の世界 アジア再生の思想
（河合文化教育研究所）

同

一九九三年 中文

一九九四年 三月

一九九四年 六月 韓国語

一九九四年一月 中文

一九九五年 三月 論集下

一九九五年 六月

一九九五年二月 論集上

一九九七年 五月 論集下

一九九七年 六月

一九九七年 六月 中文

一九九八年 一月 増補版

一九九八年 三月 論集上

一九九九年一〇月 論集上

二〇〇〇年 三月

二〇〇〇年 八月

二〇〇一年 三月

二〇〇一年 三月

六朝時代の宗族 近世宗族との比較において
中国社会の共同性について

試論中国古代社会的基本構造

中国前近代社会の基本構造試論

魏晋南北朝貴族政治与東亞世界的形成

從都督諸軍事制度來考察

六朝貴族の家庭生活及在社会政治上的作用

日本中国史研究中的共同問題(李濟滄記)

魏晋南北朝貴族政治与東亞世界的形成

從都督諸軍事制度來考察

魏晋南北朝貴族政治与東亞世界的形成

從都督諸軍事制度來考察

試論魏晋南北朝隋唐時代の歴史特質

兼論本次討論会的目的及其意義

六朝史部書籍の時代特性(胡宝華記)

致中国読者

六朝貴族の家政について

六朝貴族の家庭生活及在社会政治上的作用

谷川道雄教授訪談録(張皓・鍾玉堯)

名古屋大学東洋史研究報告 二五

東洋史苑 五八

中国社会歴史評論 四(商務印書館)

名古屋大学東洋史研究報告 二六

東亞文化圈の形成与発展 国際學術研討

会會議論文集(国立台湾大学歴史系)

中国家庭史國際學術討論会會議論文集

魏晋南北朝隋唐史資料 一九

台大歴史學報 三〇 東亞政法与文化

東亞文化圈の形成与発展 政治法制篇

(国立台湾大学歴史系)

人文論叢 二〇〇二

史學理論与史學史學刊 二〇〇二

(瞿林東主編 社会科学文献出版社)

中国史通論(上、下冊) 内藤湖南博士

中国史學著作選訳(社会科学文献出版社)

東洋史苑 六三

家庭史研究の新視野(三聯書店)

史學史研究 二〇〇四—三

二〇〇一年 三月 論集上

二〇〇一年 一〇月 論集上

二〇〇二年 一月 中文

二〇〇二年 三月 論集上

二〇〇二年 六月 中文

二〇〇二年 八月 中文

二〇〇二年 一月 中文

二〇〇二年 二月 中文

二〇〇三年 八月 中文

二〇〇三年 一月 中文

二〇〇三年 一月 中文

二〇〇四年 一月 中文

二〇〇四年 三月 論集上

二〇〇四年 四月 中文

二〇〇四年 九月 中文

受教四十年(徐谷凡記)

日本京都學派の中国史論

以内藤湖南和宮崎市定為中心(李濟滄記)

把握中国史内在邏輯 重建中国史研究模式

訪(日)谷川道雄教授(日)谷川道雄・李磊

從社会与国家關係看漢唐之間的歷史變遷

中国社会の歴史的發展と近代化 日中比較論の検討

内藤湖南の唐宋變革論とその繼承

六朝士族与家礼 以日常礼儀為中心

内藤湖南の世界 序説(馬彪記)

有関戦後の内藤湖南批判 増淵龍夫の個案(馬彪記)

試從社会与国家關係看漢唐之間的歷史變遷

六朝貴族における人格と身体

中国史における世界性と固有性

六朝時代を实例として

君主独裁政治前史二題

南北朝士族与礼貌(李濟滄記)

「唐宋變革」の世界史意義

内藤湖南の中国史構想(李濟滄記)

魏晋南北朝隋唐史資料 二一

史學理論与史學史學刊 二〇〇三

歴史教學問題 二〇〇五—一

史學月刊 二〇〇五—五

河合文化教育研究所研究論集 一

同

東亞傳統家礼・教育与国法(一)

家族・家礼与教育

内藤湖南の世界(三秦出版社)

同

社会与国家關係視野下的漢唐歴史變遷

(華東師範大学出版社)

河合文化教育研究所研究論集 二

同

河合文化教育研究所研究論集 三

黎虎教授古稀紀念中国古代史論叢

魏晋南北朝隋唐史資料 二三

二〇〇四年 二月 中文

二〇〇四年 二月 中文

二〇〇五年 二月 中文

二〇〇五年 五月 中文

二〇〇五年 九月 中文

二〇〇五年 九月 中文

二〇〇五年 九月 中文

二〇〇五年 一月 中文

二〇〇五年 一月 中文

二〇〇六年 一月 中文

二〇〇六年 六月 論集上

二〇〇六年 六月 論集上

二〇〇六年 一月 中文

二〇〇六年 一月 中文

二〇〇六年 二月 中文

人と学問 自述蹣跚六十年 階級・共同体・国家
内藤湖南の歴史方法 「文化様式」と「民族的自覚」
中国国家論序説 階級と共同体（馬彪訳）
内藤湖南の思想次元

中国国家論序説 階級と共同体

戦後日本中国史研究の動態と特点

中国古典時代の終結と東亞世界的成立（李濟滄訳）

中国古典時代の終結と東アジア世界の成立

関于中国前近代社会「非封建」的対話（馮天瑜談）

「失地農民調査」に寄せて——現代中国農民の命運

魏晋南北朝隋唐史の基本問題総論

中国現代農民維権活動覚書

内藤湖南の六朝論及其対日本学術界の影響（胡宝華訳）

現代中国農民の維権（権利擁護）運動 中国学会の討
論をめぐって（中田和弘・田村俊郎との共著）

于建嶸（Yu Jianrong）教授簡介

現代中国農民運動の特質 趣旨説明を兼ねて

現代中国農民維権運動の歴史的位置

中国 社会と文化 二二

河合文化教育研究所研究論集 五 二〇〇七年 六月 中文

日本中国史研究年刊 二〇〇六年度 二〇〇八年 五月 中文

東アジア文化交渉研究別冊 三 二〇〇八年 二月 中文

名古屋大学東洋史研究報告 三三 二〇〇九年 三月 論集上

江漢論壇 二〇〇九—四 二〇〇九年 四月 中文

日本中国史研究年刊 二〇〇七年度 二〇〇九年 九月 中文

河合文化教育研究所研究論集 七 二〇〇九年 二月 中文

史学月刊 一 二〇一〇年 一月 中文

土地を奪われゆく農民たち 中国農村に
おける官民の闘い（河合文化教育研究所）
魏晋南北朝隋唐史学的基本問題
（中華書局）

二〇一〇年 二月 中文

河合文化教育研究所研究論集 八 二〇一〇年 二月 中文

門閥、莊園と政治 中古社会変遷研究
（商務印書館、一九九三の論考の再録） 二〇一一年 一月 中文

河合文化教育研究所研究論集 九 二〇一二年 三月

同 二〇一二年 三月

河合文化教育研究所研究論集 一〇 二〇一二年 二月

同 二〇一二年 二月

「書評・回顧と展望・訳注」

題 目

京大東洋史一、二、三（書評）

魏晋南北朝 一九六一年の歴史学界（回顧と展望）

府兵制度考釈（谷霽光著）

魏晋南北朝 一九六六年の歴史学界（回顧と展望）

隋唐帝国（布目潮瀾・栗原益男著）

唐末三大叛乱（訳注）（東洋文庫）

閻步克「郷里・官場・史林 漢晋士族の発展についての
若干の断想」訳

陳蘇鎮「漢初の東方政策略述」訳

並木頼寿著、研文出版、『東アジアに「近代」を問う』
（並木頼寿著作選I）（書評）

「序文 その他」

題 目

隋唐世界帝国について

中国古代末期の農民闘争

隋・唐の世界帝国（横田滋との共著）

掲 載

東洋史研究 一一五・六

史学雑誌 七一・五

東洋史研究 一二二・二

史学雑誌 七六・五

名古屋大学東洋史研究報告 三

中国民衆叛乱史 一（平凡社）

河合文化教育研究所研究論集 二

同

中国研究月報 六五（三）

掲 載

日本史研究 別冊（一九五二年度大会報告

歴史の変革と愛国心

歴史と現代（一九五四年五月、歴史学研

究会大会報告）

アジア史講座 一（岩崎書店）

発行年 注記

一九五二年 七月

一九六二年 五月

一九六三年 一〇月 論集下

一九六七年 五月

一九七五年 四月 論集下

一九七八年 八月

二〇〇六年 六月

二〇〇六年 六月

二〇一一年 三月 中文

発行年

一九五三年 九月

一九五五年 一月

一九五五年 六月

(事典項目) 安史の乱、安東都護府、安祿山、王仙之、
黄巢の乱

世界大百科事典 平凡社

一九五五年一〇月
一九五七年 二月

統一封建帝国の隆盛とその衰微

隋唐五代(五八一〜九六〇年)(訳)

中国歴史概説 上

一九五六年一〇月

(辞典項目) 殷開山、烏承玼、王涯、韓思復、牛弘、許

アジア歴史辞典 平凡社

孟容、源乾曜、高開道、孔紹安、崔胤、崔廓、周

一九五九年 九月
一九六二年 四月

(武周)、肅宗(唐)、蕭瑀、秦瓊、辛德源、薛平、

薛仁果、蘇威、宋金剛、大業雜記、中宗(唐)、張

仁愿、沈法興、陳稜、鄭訳、寶毅、寶建德、独孤

信、杜黃裳、杜伏威、南陽公主、裴仙先、文帝(隋)、

庾季才、楊玄感、楊師道、楊素、楊爽、楊諒、来護

児、羅芸、李子通、李密、劉方

新民 六一創刊

安保闘争から歴史方法論へ

社会教育大系 三 歴史教育の課題

一九六一年

日本史と世界史像「学習指導要領」批判を中心として

名大評論 一〇

一九六三年 一月

ヒデリノ トキハ ナミダ ヲ ナガシ

毎日新聞

一九六五年 五月

(事典項目) 均田法、節度使、租庸調、中宗、唐、唐太

大日本百科事典 小学館

一九六七年 六月二四日

宗、房玄齡、楊炎、李勣、劉晏、兩税法

一九六七年おぼえがき

新民 六八一六

一九六八年 二月

生いたちの記

宇都宮先生退休記念文集 三家渡河録
(名古屋大学文学部東洋史学研究室)

一九六九年

中国の「中世的近代」

朝日新聞

一九七一年二月 四日

意識的に越えた世界 個と共同体が有機結合

ある精神史

波多野先生退休記念文集 以文将意集
(名古屋大学文学部東洋史学研究室)

一九七二年 三月

以文将意集 あとがき

中央公論 歴史と人物 一九七三—六

一九七三年 三月

中原に生きる匈奴たち 貴族・民衆・知識人

毎日新聞

一九七三年 八月二四日

「由らしむべし」新考

同

一九七三年 九月二七日

陸沈

同

一九七三年 九月一〇日

びつこの聖者

同

一九七三年 九月一七日

節約とケチ

同

一九七三年 九月二五日

敬老を問う

同

一九七三年 九月二五日

ある挽歌

同

一九七三年 九月二五日

崔浩 知性の悲劇

中央公論 歴史と人物 一九七三—二

一九七三年 一月

日中間の無限の距離

中日新聞

一九七四年 四月二〇日

古典的知識人から現代的知識人へ

中央公論 一九七四—二

一九七四年 一月

中国の中世の說話「太平広記」の世界 (はじめに)
中国の「家」と三結合への視点

伝説と現代 三〇
いち 六

一九七四年 一月
一九七五年 六月

(事典項目) 均田制、五胡十六国、節度使、租庸調・雜

万有百科大事典 九 世界歴史 小学館

一九七五年 八月

徭、唐、北周、北齊、楊炎、李世民、劉晏、兩税法

近代日本人の体質と共同体

中日新聞

一九七五年 八月二六日

蔵書の世界

EDITOR 一三

一九七五年 九月

「水滸伝」批判におもう 現代中国の歴史意識

中日新聞

一九七五年 九月一六日

「毛・周時代」の意味するもの

中国現代政治の人間学 天安門事件に思う

毛沢東思想の世界〈上〉「辺境」みつめる精神

毛沢東思想の世界〈下〉流動と発展の相

桃源郷は実在したか 中世社会の夢と現実

鬼神論争

教えること 学ぶこと

激動に生きた郭沫若氏

唐末三大叛乱 解説(東洋文庫)

隋唐五代の義兄弟結合について(大会抄録)

五胡十六国

日野史学私考

中国中世における「公」 教団・名望家支配・国家

試論・隋唐国家の歴史的構造

弔辞(追悼 川勝義雄教授)

(事典項目) 官僚制、貴族制、均田法、辛德源、蘇綽、府兵制、封建制

(事典項目) 安史の乱、塢、字文化及、宇文泰、宇文融、燕(慕容氏)、燕(馮氏)、王世充、王仙芝、夏(赫

同

同

同

同

同

本 一九七七年六月

中日新聞

同

中国民衆叛乱史 一(平凡社)

東洋史研究 三八―三

月刊シルクロード 六一二

日野開三郎東洋史学論集 一

編集のしおり

月刊百科 二四〇

名古屋人文科学研究会 年報 一九八二―

九

人文 三〇

中国思想事典 目原利国編(研文出版)

大百科事典 平凡社

一九七六年 一月一〇日

一九七六年 四月一〇日

一九七六年 九月一〇日

一九七六年 九月二一日

一九七七年 一月 四日

一九七七年 六月

一九七七年 六月

一九七七年 六月 四日

一九七七年 六月 一七日

一九七七年 八月

一九七九年 二月

一九八〇年 二月

一九八〇年 九月

一九八二年 一〇月

一九八四年 三月

一九八四年 四月

一九八四年 一月

一九八五年 六月

連氏)、開元の治、郭子儀、赫連勃勃、賈充、哥舒

翰、家父長制(中国)、勸農(中国)、魏(北朝)、

飢饉(中国)、義兒伝、魏晋南北朝時代、兄弟分

(中国)、高歡、後宮(中国)、高頴、寇謙之、皇后

(中国)、高祖(唐)、黄巢の乱、皇太后(中国)、孝

文帝、五諫、五胡十六国、胡太后、崔浩、三国時

代(川勝義雄と共著)、爾朱榮、徙民政策、周(北

朝)、十六国春秋、貞觀の治、沮渠蒙遜、女史、秦

(苻氏)、秦(姚氏)、秦(乞伏氏)、人文、成、齊

(高氏)、西魏、石虎、石崇、石勒、宋雲、蘇綽、祖

珽、太上皇、太宗(唐)、太武帝、拓跋珪、拓跋氏、

地文、趙(劉氏)、趙(石氏)、張華、張軌、張議潮、

長孫無忌、陳寅恪、狄仁傑、天王、天文、東魏、僮

約、統万城、東洋史学、禿髮氏、都督、年代記(中

国)、幕府(中国)、部曲(中国)、苻健、苻堅、武

帝(北周)、府兵制、父老、文宣帝、平均思想、兵

戸、龐勛の乱、北朝(中国)、慕容廆、慕容皝、慕

容儁、慕容垂、野干、姚興、陸贄、六鎮の乱、李靖、

李德林、李雄、劉淵、劉綏、劉備、劉曜、涼(張氏)、

涼(呂氏)、涼(禿髮氏)、涼(沮渠氏)、涼(李氏)、

歴史(中国)、琅邪

(事典項目) 通典、杜佑、北魏、北周、北齊、姚崇、李

勤

訪中日記抄

四世紀の中国 古墳時代の東アジア

日本大百科全書 小学館

名古屋大学東洋史研究報告 一〇

島根史学会会報 一〇

一九八四年 一月

一九八八年 二月

一九八五年 八月

一九八六年 五月

アジア歴史研究入門

南北朝時代の中国 異質世界の融合

視野の広さ、洞察力の深さ

六朝豪族社会と東アジア世界

三大家とその時代

復刻を喜ぶ

東アジア文化圏の成立

大学の窓から覗いた台湾の社会

大唐世界帝國的統治之道

中国文化と中国社会

皇帝と人民の構図

中国史の研究動向 秦・宋

林さんのこと

心眼の人

師説と私

中国史研究の戦後と戦後後、そして現代世界

出版ダイジェスト 一一八〇

週刊朝日百科 日本の歴史 四四

日野開三郎東洋史学論集 二二

パンフレット

日本文化研究施設報告

日本文化と東アジア

墨 七二

冊府元龜奉使部外臣部索引再刊パンフレット

ひとものころ (天理大学附属天理参考館所蔵品) 二一五 隋唐の文物

東方 九二

歴史月刊 一二

文明 五五

週刊朝日百科 世界の歴史 二八

改訂版高等学校世界史 指導と研究

史学論叢 二一

月刊 健康 三六九

宮崎市定全集 六 月報八

一九九二 河合おんぼろす

一九八六年一〇月

一九八七年 二月

一九八七年 九月

一九八八年 三月

一九八八年 六月

一九八八年 九月

一九八八年十一月

一九八九年 一月

一九八九年 三月

一九八九年 六月

一九九〇年 三月

一九九〇年 六月

一九九一年 八月

一九九二年 六月

一九九二年 八月

(事典項目) 魏晉南北朝時代

戦後日本の中国史論争 はしがき

府兵制国家論

虚空へ

土屋さんと近藤さんへ

その身は馬嵬に留まり 楊貴妃の最期

新たな場で未踏の研究領域へ

河合文化教育研究所新任研究員を迎えて

「聞く」ということ

特輯号に寄せて

小田義久博士還暦記念東洋史論集序文

中国社会の成り立ちと儒学

人知らずして慍おらず (宮崎市定博士追悼録)

唐代史研究会と私

東アジア史を問い直す 「戦後五〇年」を超えて

唐帝国の世界性

共同体と歴史認識 中国理解と中国社会史

日本史大事典 平凡社

戦後日本の中国史論争 (河合文化教育研究所)

唐代史研究会会報 六

年報 一三 竹内良知先生追悼記念

清揚 土屋由紀子・近藤昌子のお二人に贈る文集

片山九郎右衛門後援会々報 五五

ガイドライン 一九九四年七・八月

月刊 健康 四二〇

古代文化 四六一一

小田義久博士還暦記念東洋史論集

東海地域文化研究 六

東洋史研究 五四一四

唐代史研究会会報 九

河合おんぼろす 特別号

戦後五〇年シンポジウム

書の宇宙八 屹立する帝国の書・初唐楷書

月刊 情況 第二期 八一七

一九九二年十一月

一九九四年 五月

一九九三年 一月

一九九三年 四月

一九九三年 八月

一九九四年 三月

一九九四年 五月

一九九四年 七月

一九九四年一〇月

一九九四年十一月

一九九五年 七月

一九九五年 七月

一九九六年 三月

一九九六年 七月

一九九六年一〇月

一九九七年 八月

一九九七年 九月

東アジア統一試験比較分析プロジェクトの意味するもの

隣国ではどんな入試がおこなわれているか
日・中・韓大学入試比較分析レポート

一九九七年一〇月

日中韓三国関係と東北アジアの平和的發展
国際学術シンポジウム論文集 前言

日中韓三国関係と東北アジアの平和的發展
国際学術シンポジウム論文集

一九九七年一〇月

東アジア世界の成立について

同
森正夫先生退官記念文集 東山帥以記
(名古屋大学文学部東洋史学研究室)

一九九七年一〇月

同道半世紀

熊本日新聞

一九九八年 七月 八日

中国史に見る共生する人々 一

現代とは 無関心が社会の「鉄則」

中国史に見る共生する人々 二

生きた歴史学 見つけた自分の課題

同

一九九八年 七月一五日

中国史に見る共生する人々 三

軽財重義 私欲を捨て民の結束守る

同

一九九八年 七月二二日

中国史に見る共生する人々 四

陰徳 最も純粹で最も難しい

同

一九九八年 七月二九日

中国史に見る共生する人々 五

キリスト教と道教

同

一九九八年 八月 五日

中国史に見る共生する人々 六

「義舎」の制度 人間の過度の欲望に戒め

同

一九九八年 八月一九日

中国史に見る共生する人々 七

義 自他のさかいを越えて成立

同

一九九八年 八月二六日

中国史に見る共生する人々 八

義田制度 一族が団結し相互扶助

同

一九九八年 九月 二日

中国史に見る共生する人々 九

孝順・謙讓 日常生活で養われる倫理

同

一九九八年 九月 九日

中国史に見る共生する人々 一〇

三位一体 人間と自然 交感する世界

同

一九九八年 九月一六日

中国史に見る共生する人々 一一

孔子と賢治 怒り越えさせる無私の知性

同

一九九八年 九月三〇日

中国史に見る共生する人々 一二

学問の営み 虚心に真理と向き合う

同

一九九八年一〇月 七日

中国史に見る共生する人々 一三

六条詔書 まん延する官僚汚職に戒め

同

一九九八年一〇月一四日

わが内なる六朝史

岩波講座世界歴史 月報一六

一九九九年 一月

内藤湖南の世界 まえがき

内藤湖南の世界 アジア再生の思想

二〇〇一年 三月

唐代史研究 第四号 巻頭言

唐代史研究 四(唐代史研究会)

二〇〇一年 六月

清代の政治と文化 序

大谷敏夫著 清代の政治と文化

二〇〇二年 三月

光のなかの闇、闇のなかの光

中国 社会と文化 一七

二〇〇二年 六月

新緑に映える道

西嶋定生 東アジア史論集 月報 三一四

二〇〇二年 八月

中文版自序(馬彪訳)

中国中世社会与共同体(中華書局)

二〇〇二年一二月

唐宋変革雑考

東方 二六四

二〇〇三年 二月

わが研究人生における内藤湖南

湖南 二三

二〇〇三年

〈内藤湖南研究会〉の紹介
 〈義〉の社会史 中国史に見る共生のモラル
 いま中国は…そして私は…
 中文版自序

中国のいまと歴史

中国民衆の反日デモの底流

近代一〇〇年史に立った認識を

試論・人間の歴史としての中国史（Ⅰ）

試論・人間の歴史としての中国史（Ⅱ）

二〇〇五年〈われと人〉の諸相

年賀状のひと束を前にして

内藤湖南の世界 中文版序（馬彪訳）

内藤湖南の世界 日文版前言（馬彪訳）

中国史研究と民衆の未来 谷川道雄先生を囲んで

歴史と環境 谷川道雄先生を囲んで

学術文庫版へのあとがき

同窓石牟礼夫妻

自我と研究人生

北京オリンピック後の中国 谷川道雄先生を囲んで

KAWA I 文教研ればくと 二〇〇三年 二月

道標 秋 七

朝の会講話シリーズ二 二〇〇四年一〇月

隋唐帝国形成史論（世紀出版集団・上海古籍出版社） 二〇〇四年一〇月

中国の歴史 月報 四 二〇〇五年 二月

京都新聞 二〇〇五年 五月 四日

朝の会講話シリーズ七 二〇〇五年 九月

朝の会講話シリーズ八 二〇〇五年 一月

KAWA I 文教研ればくと 二〇〇五年 二〇〇五年

内藤湖南の世界（三秦出版社） 二〇〇五年 一月

同 二〇〇五年 一月

道標 春 一六 二〇〇七年 三月

道標 夏 二一 二〇〇八年 六月

隋唐世界帝国の形成 二〇〇八年 九月

石牟礼道子全集 不知火 一四「短編小説・批評」月報 二〇〇八年 一月

KAWA I 文教研ればくと 二〇〇八年 二〇〇八年

道標 春 二四 二〇〇九年 二〇〇九年

土地を奪われゆく農民たち 二〇一〇年 二月

同 二〇一〇年 二月

湖南 三〇 二〇一〇年 三月

交感する中世 日本史と中国史の対話 二〇一〇年 三月

歴史評論 七二三 二〇一〇年 七月

わたしが選んだこの一冊 二〇一〇 二〇一〇年 三月

わたしが選んだこの一冊 二〇一一 二〇一一年 三月

KAWA I 文教研ればくと 二〇一一春 二〇一一年 五月

日本古書通信 七七一五 二〇一二年 五月

道標 夏 三七 二〇一二年 六月

歴史評論 七二三 二〇一二年 七月

道標 秋 三八 二〇一二年 九月

道標 冬 三九 二〇一二年 二月

わたしが選んだこの一冊 二〇一二 二〇一二年 三月

文教研の栞 二〇一二・夏 二〇一二年 三月

道標 春 四〇 二〇一三年 八月

わたしが選んだこの一冊 二〇一三 二〇一三年 八月

〔付記〕著書、編著、論考、書評等について、『隋唐帝国形成史論』『同（増補）』『中国中世社会と共同体』『中国中世の探究』、今回刊行する『谷川道雄中国史論集 上・下巻』に収められた論考については『隋唐帝国形成史論』↓形成史論、『同増補版』↓増補版、『中国中世社会と共同体』↓共同体、『中国中世の探究』↓探求、『谷川道雄中国史論集上巻』↓論集上、『同下巻』↓論集下と注記した。また中国語の著書論考は「中文」、「英文」、「韓国語」のものを注記している。論考の中に本書に収めなかったものもある。すでに講座や他の論集に収められている論考、また、講座、研究会の論集として出版されているものの一部は収録しなかった。また中国史研究者のみならず他分野の研究者に向けて書かれたものは別途出版する企画もあり、今回は除いている。一覧にもまだ抜けているものもあるかも知れないがご諒解願いたい。（葭森）

あとがき

二〇一三年に私たちの恩師谷川道雄先生がご逝去されてからすでに四年が経とうとしている。亡くなった後、自宅、書斎として使われていたマンション、河合教育文化研究所の研究室にそれぞれ残されていた書籍と資料の整理が順次行われ、その際に早稲田大阪学園向陽台高等学校教諭の澤田晃治氏を中心となり著作目録の補訂が行われた。この目録作成を契機として、既刊の著書に未収録の論考を編集して出版すべきではないかという声が上がった。有志が相談の上、奥様にも承諾いただき本書の出版が企画された。

谷川道雄という、戦後の時代が生んだ歴史家、哲学者の風格を持った中国史研究者は、次世代に向け様々な提言を残した。谷川の中国史研究は、実証研究の枠にとどまらず、我々はなぜ中国史を研究するのかという問いかけを含むものであった。それ故その問いかけは直接教えを受けた者のみならず、多くの研究者にも多様な影響を与えた。今後、戦後の歴史学を考察する際、谷川自身が研究対象となることもある。谷川史学の全体像を窺い知るための手がかりをまとめた形で広く後世に残しておくことにも意義があると考えた次第である。

編集にあたり、当初はテーマごとに章を分け編集しようという意見もあった。しかし、我々が自らの視点で分類し章立てするよりは、研究対象となった時代を基準に三部に分け、各部は論考発表の時系列に並べた方が適切であると判断するに至った。そうすることで、谷川の思考過程をたどる上で意味があるうと考えたからである。そこで本書の

上冊を二部構成として、第Ⅰ部に六朝を中心とした中国史における視角に関する論考を、第Ⅱ部に六朝を中心とした実証研究に関する論考を収めた。下冊は隋唐を中心とする研究で構成した。

『隋唐帝国形成史論』（筑摩書房、一九七一年初版、一九九八年増補版）、『中国中世社会と共同体』（国書刊行会、一九七六年）、『中国中世の探究』（日本エディタースクール、一九八七年）所収の論考も含め、研究論考全体を再編集するのが最善の方法だったかも知れない。しかし、諸般の事情で、すでに出版された著書に収録された論考は除いて、未収録論考のみを収録することにした。その結果、上冊ではいわゆる「共同体論」を発表して以後の著書、特に『中国中世の探究』以降のものを収録することとなった。これに対し、下冊に収められた論考は「共同体論」発表以前の論考が中心となった。「唐末の諸叛乱の性格」と「隋唐政治史に関する二三の問題——とくに古代末期説をめぐって——」との間の十二年間の空白は、谷川が隋唐史研究を離れていた期間に他ならない。谷川「共同体論」の骨子を形成する諸論考は、この空白の期間に世に問われたのであり、それらは上記三冊の単行本に採録された。読者諸子には本書に対して、谷川著作の残滓を集めた論集との印象を抱かれるかも知れない。しかし我々は、これまで広く一般に知られることのなかった青年期・晩年期における谷川道雄の研究を知る上で、本書が重要な手がかりとなるものと確信して、編集・刊行する次第である。

なお、本書の序文執筆は、森正夫氏にお願いした。氏は、谷川の洛北高校における受業生であり、のち名古屋大学では谷川と同僚となった。森氏は、本書所収の論考一本一本を丹念に要約し、本書の解題ともいえる文章を寄稿して下さった。その内容を考慮し、森氏と相談の結果、「序に代えて」と題することとした。本書を読み進める上で、様々な角度から手がかりを与えてくれるであろう。

将来、谷川道雄に対しては様々な評価がなされることであろう。ただその際には、谷川の一部著作を読むにとどま

らず、本書を含め氏の著作全体を併せ読まれて、議論していただくよう切望する。また森氏が「序に代えて」で書かれているとおり、読者各位には本書所収の論考一本一本を味読されることを願っている。

本書下巻末には、澤田晃治氏監修の著作一覧を附した。論考初出時の情報を示すと共に、『増補 隋唐帝国形成史論』（正編、補編）、『中国中世社会と共同体』、『中国中世の探究』および本書上巻・下巻所収の論考には注記を施したので、ご参照いただきたい。著作一覧には、内藤湖南関係や維権農民運動関係の論考、現代日本社会や中国社会に関するコラムなどが散見するが、これらについては、中国史研究者以外の読者に広く知っていただくために別途出版した方がよからうと判断し、あえて本書には収めなかった。この点、最後に附言しておきたい。

なお、本書の出版に当たっては、谷川先生と関係ある多くの方々のご支援、ご協力を賜った。特に河合文化教育研究所からは、南博事務局長をはじめとする各位のご厚意により、同研究所発行の『研究論集』の入稿時のファイルや先生ご本人の校正原稿、写真等を提供して頂いた。また出版を快く引き受けて下さった汲古書院前社長の石坂観志氏、社長の三井久人氏、編集を担当して下さいました小林詔子女史に心より感謝申し上げます。

編集委員を代表して 伊藤宏明 辻 正博 福原啓郎 荻森健介

編集委員会

赤羽奈津子 市村導人 伊藤宏明 猪俣貴幸 榎本あゆち 江村治樹 長部悦弘 織田めぐみ 小野 響
小野 泰 小野木聡 尾関圭信 川見健人 小林義廣 澤田晃治 千田 豊 高木智見 田村俊郎

辻 正博 藤堂光順 中田和宏 名和悦子 二木順子 福原啓郎 安永知晃 吉尾 寛 葭森健介
 刊行委員会

石見清裕 小尾孟夫 金子修一 窪添慶文 氣賀澤保規 佐藤智水 都築晶子 礪波 護 中村圭爾
 東 晉次 安田二郎 吉川忠夫

(以上五十音順)

(2) 人名索引 ハラ～ロウ

原田種成	292, 352	増淵龍夫	164	吉川幸次郎	13
日野開三郎	23, 35, 55, 245	松井秀一	175		
プーリィブランク, E.G. 82,		松本新八郎	174	ラ行	
113, 114, 181		守屋美都雄	113, 114	羅振玉	141, 245
堀敏一	11, 12, 22, 114,	森正夫	257	李華興	292
163-171, 173, 175, 178,		護雅夫	243	李斌城	356
186, 191, 193, 194, 219				劉健明	353
		ヤ行		勞経原	141
マ行		矢野主税	242		
前田直典	162, 163	矢吹慶輝	297		